

第4学年 「特別な教科 道徳」学習指導案

令和3年6月2日（水）第5校時

第4学年1組27名

指導者 河村 康彦

「主体的に学びに向かう児童の育成」
～自分や友達のことを知り、わかり合える活動を通して～

1 主題「一人一人のよいところ」

資料名「世界に一つだけの花」（内容項目A-4個性の伸長）

2 主題について

「世界に一つだけの花」の歌詞には、一人一人に違う個性があり、世の中は競争してナンバーワンになることだけではなく、その個性を伸ばし、自分の中のオンリーワンを大切にすることを意味している。それは、児童一人一人が、たった一つの個性をもつ素晴らしい人間であることに繋げていきたい。そして、学級の中で、互いの個性のよいところを見付け合う活動を通して、自分もっている個性のよさを自覚したうえで、それを伸ばすにはどうすればよいかを考えさせたい。

3 児童の実態

本学級の児童は、明るく、男女とも仲良く、協力しながら生活できている。一人一人が穏やかで、友達に対して優しく接することができる児童が多い。しかし、教師の指示には、要旨をとらえて実行することができるが、自分から動いて行動できることが少ない。他人のよさを認める心はあるが、自分のよさに自信がもてないこともある。

『リーダー・イン・ミー』の「7つの習慣」については、3年生から、担任が変わらず指導を受けていて、「7つの習慣」すべてを関連付けた道徳の授業を3年生で経験をしている。また、その時に作成した「7つの習慣」の木は4年生の教室に継続して掲示している。しかし、1回の授業の中で、どこで教科書を使い、どこで「7つの習慣」と関連づけるかは、授業者の方針が固まっておらず、不定期的な取り上げ方をした授業を受けた。

4年生では、先に道徳の教科書の資料を使い、主題について考える。授業の終末で、「7つの習慣」との関連を考えることによって日常生活の中に道徳的な価値を組み込めるようにしたい。本資料での学習を通して、友達の個性に共感しながら、自分の個性を大切に伸ばしていきたいという心情を養いたい。

児童は、これまで自分の個性やよさは分かっていたけれど、今一つ本当にそうかなと自信をもてずにいた。これまで、担任がよさを褒めたり、友達が認めたりはしてきたが、本時では、今までのそれらの統合をしたい。

4 研究主題に迫るための手立て・工夫

(1) 【中学年ブロックで研究主題に迫るために、身に付けたい力】(本時で重視した力を下線とした。)

自分と向き合う力 (自己理解・自己管理能力)	自分をつくる力 (キャリア プランニング能力)	つながる力 (人間関係形成 ・社会形成能力)	先を見通す力 (課題対応能力)
① <u>自分の良いところを見つけることができる児童。</u> ② 不得意な事や苦手な事でも進んで取り組もうとすることができる児童。	① <u>将来の夢や希望をもつことができる児童。</u> ② <u>自分の夢のために何かを頑張ることができる児童</u>	① 自分の意見や考えを分かりやすく表現することができる児童。 ② <u>友達のよいところを認め、励まし合うことができる児童。</u> ③ 友達と協力して、学習や活動に取り組むことができる児童。	① 自分の力で課題を解決しようとする児童。 ② 分からないことを、図書資料などで調べたり、質問したり、試行錯誤でできる児童。

(2) 道徳の授業での手立て

① 『リーダー・イン・ミー』

自分の中にリーダーをつくり、自分を引っ張っていくためには、自分を知り、自分を大切にすることが基本である。資料「世界で一つだけの花」は、自分の中の個性を大切に、それを伸ばしていくことを考えさせることができ、『リーダー・イン・ミー』の自分の中のリーダーという趣旨と重なるところがある。そこで、終末に「7つの習慣」との関連を考えながら振り返る活動を通して、授業で考えたことを、習慣の中に取り入れ、個性を伸ばさせることを日常の中に取り入れたい。具体的にどの習慣にすると限定せず、授業の内容を踏まえて、児童に「7つの習慣」の中からどれに関連するかを切り出させたい。予想としては、第7の習慣「自分を磨く」、第1の習慣「自分で考えて行動する」、第5の習慣「わかってあげてからわかってもらう」など複数が予想され、あえて限定せずに受け入れていきたい。

昨年度の研究授業では、はじめに『リーダー・イン・ミー』の第3の習慣「だいじなことは今すぐ」に関連して3年生のテキストにある「大切な人」のページを先に取り扱い、児童に道徳の資料「百六さい、おめでとう、ひいばあちゃん」(C-14 家族愛, 家庭生活の充実)について関連を考えさせた。授業後の振り返りで、第3の習慣との関連性はあったが、他の習慣との関連性もあり、一つに限定することで児童たちに迷いを生じさせてしまったという課題が明確になった。また、主発問と第3の習慣との微妙なズレもあり、授業のねらいがぼやけてしまうことも分かった。そこで、他の教諭が1週間後に、隣の学級で、いずれの習慣を限定せずに、最後に振り返りとして「7つの習慣」に触れることで、児童から「この点は当てはまる」という考えのもと、いくつかの習慣との関連性を見出すことができた。このような昨年度の成果と課題を受け、本時では、同様の展開で計画をした。

② 掲示物による価値付け

「7つの習慣」の木を掲示した。3年生の後半から、自分たちで葉を作成して道徳で考えた「7つの習慣」を書き込み、装飾した。4年生でも教室の前方に掲示している。道徳を中心に学んだことと「7つの習慣」を結び付けて考えられる手助けとした。

(3) 日常や他教科での手立て

①帰りの会での「今日の MVP」の取り組み

その日に活躍した友達を推薦し、その理由を発表している。何かに一生懸命取り組んだ人、友達のために頑張った人、友達に親切にした人などを取り上げている。日によって、複数の友達が推薦されることがある。自分たちで人の良さを探すこと、それを共有することを通して、他者に対しての理解を深めている。また、推薦された本人は、他者から認められ自己肯定感を高めることができる。

②本音日記

自分が思ったこと、考えたことを短文の日記にまとめている。自分で自由に書いたり、宿題として書いたりして担任に提出している。書いた内容は他人に見せることはないが、書かれている内容によっては担任が介入して、友達同士の理解に役立っている。

③クラス遊び

クラスレク係が中心となり、定期的に中休みのクラス遊びをしている。係は、遊びの種類や鬼ごっこの鬼の希望などを、クラスに問いかけながら、多くの意見を取り入れている。

④学級会

司会グループを輪番で行い、お楽しみ会や係活動の反省などの学級会をしている。多数決だけでなく、少数の意見も聞いて、クラス全員で考えている。

⑤ペア交流、グループ交流

机を正面にならないように、近づきすぎないようにしながら移動して、ペア、グループによる話し合い活動を取り入れている。4名から5名の生活班には、各自が学習リーダー、集めリーダー、配りリーダー、整頓リーダーとして役割を決め、自主的に行動できるようにしている。

⑥ICT 機器を活用した交流の場の設定

意見の交流で ICT を活用している。児童の個々の考えをタブレット端末に移して、全体の画面で共有している。個々の考えが可視化できて意見の交流に役立った。

5 本時

(1) 本時のねらい

互いのよいところを見つけ合う活動を通して、自分のよいところについて考えさせ、一人一人の個性にふれ、自分の長所を伸ばしていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される反応	★指導上の留意点／◆評価
導入	1 自分のよいところはどんなところかを考え、発表する。	○自分のよいところってどこだろう。すぐに思いつきますか。 ・優しい・気が利く	★自分ですぐに思いつかない児童には、保護者や先生からほめられたことでもよいことを伝える。
自分のよいところを発見して、一つだけの花をさかせよう。			
展開 1	2 ①「世界に一つだけの花」の歌詞を読み、「世界に一つだけの花」とはどういう花だと思うか、発表する。	○「世界に一つだけの花」はどのような花だと思いますか。」	★歌詞は、最初は丁寧に語句を確認するために、教師が範読をする。次に、曲の音源を流して、親しみながら歌詞の意味に触れるようにする。
	②クラスの友達がどんな花を咲かせているかを考え、カードに書き、それを渡し交流する	○「友達がどんな花を咲かせているかを書いてみましょう。」 ・親切の花・頑張り屋の花	★友達のよさが思い浮かばない児童には、友達がしたよい行動などを具体的に書いてもよいことを伝える。
展開 2	3 友達と交流して気付いた、自分のよさは何かを考え、話し合う。	○「友達に花を渡して、説明しましょう。」 ・誰に対しても変わらずに優しくできる人 ・苦手なことにもあきらめないで挑戦できる人	★友達から自分のよさについての花をもらったときの感想を伝え合って、自分のよさを感じられるようにする。
終末	4 「自分がさかせたい花を育てるために、日常でこころがけることを考え、自分の長所を伸ばしていこうとする。	○「あなたがさかせたい花を育てていくために、日常の生活でこころがけることを書きましょう。」	★書いたことを「7つの習慣」との関連で結び付けられるようにする。 ◆自分のよいところを磨いていくために、日常生活で何をすべきかの具体的な考えをもち、個性を伸ばさせたいという心情をもっている。

＜中学年分科会＞ 授業を見ていただく視点

- ① 全員が自分の咲かせたい花を考え、そこにある自分のよさを伸ばそうとしているか。
- ② 友達から自分の咲かせている花を知らされるのが、自分を知るための手立てとして有効であったか。
- ③ 終末で「個性の伸長」をさせるために、日常生活に生かそうとしているかどうか。その際に、「7つの習慣」を関連付けることは効果的であったか。